

防災気象情報と警戒レベルの対応が変わりました！



今回の防災ニュースでは、皆様の安全を守るため、大雨や台風時の「防災気象情報」と「警戒レベル」の最新の対応関係をお知らせします。2026年5月29日より、気象庁の新しい「防災気象情報」の運用が開始されています。「より正確に危機を伝える」ためのアップデートになります。今回の変更のポイントは、「情報の名称が変わったこと」と「危険が迫る前に、より早く、具体的に、状況が伝わるようになったこと」です。

【重要】なことは、警戒レベル5「緊急安全確保」を待ってはいけません！その前に避難しましょう。



変更の主なポイント

①「避難勧告」は廃止されました！

これまでは【避難勧告＝自治体からのおすすめ】という段階がありましたが、これが分かりにくかったため廃止されました。これからは【避難指示＝全員避難の命令に近いもの】に一本化されています。「レベル4：避難指示」が出たら、危険な場所にいる人は全員、今すぐ避難してください。

② 線状降水帯などの最新情報が「警戒レベル」に対応

近年、大雨の引き金となる「線状降水帯」の予測や発生情報が警戒レベルと連動するようになり、より早い段階で危機を察知できるようになりました。



さて…、「避難」とは、どういうことでしょうか？

「避難」とは、文字通り「難」を「避」けることです。学校や公民館といった指定避難所へ行くことだけが避難ではありません。状況に合わせて、主に2つの方法があります。

◆ 外へ逃げる（立退き避難）

指定避難所のほか、安全な地域の親戚・知人宅やホテル・旅館へあらかじめ移動することも立派な避難です。

◆ 屋内で安全を守る（屋内安全確保）

外が暴風雨で移動がかえって危険な場合、建物の上の階に移動する（垂直避難）など、自宅等にとどまる方法です。

ただし、自宅にとどまるには次の条件が必須です。

- ・ハザードマップで安全な場所（家屋倒壊や土砂災害の恐れがない）であること
- ・浸水しない高さに居室があること
- ・水や食糧の備え（備蓄）が十分にあること

今月の記号
津波避難ビル



津波から一時的に避難できる高さが有り高耐久のビル

【どう動けばいい？が30秒でわかる！】

あなたやご家族が災害時にどう行動すべきかが一目でわかる、内閣府推奨の「避難行動の判定フロー」です。ハザードマップと一緒に、ぜひ今すぐスマホをかざして確認してみましょう！

避難行動の判定フロー



内閣府防災のホームページより

★自身の安全が最優先★

いずれの場合でも、「レベル3」や「レベル4」が出された場合は、自身や一緒にいる方々の安全を最優先にし、速やかに避難や安全確保の行動を開始してください。

避難情報と大雨の警戒レベル

引用元：内閣府「避難情報のポイント」ポスター

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	ひなんしじ 避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者・障害者は避難	こうれいしゃどうひなん 高齢者等避難 ※2
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	レベル2 大雨・土砂災害・氾濫・高潮注意報 (気象庁)

新安否確認システム - Vjica(ヴジカ) を運用しています

職員やクライアントの安否を迅速かつ正確に確認することは、事業継続する為に欠かせない要素です！土屋防災感染症対策委員会では、独自のシステム開発により所属する全社員を対象とした安否確認システムVjica(ヴジカ)を2025年2月より運用しています。

！災害発生後の優先順位

1. 「ヴジカ」からのメールにあるgoogleフォームに安否を返信。
2. 「ヴジカ」からの返信が難しい場合は、Chatworkや電話、災害伝言ダイヤル・Web伝言板171などを使用し、必ず管理者に安否を伝えてください。

【土屋防災委員会】の

をフォロー
をお願いします！
エックス



アカウント登録をして、防災に関する様々な情報をGET!!